

事業報告書

第13期

自 2015年 9月 1日

至 2016年 8月 31日

特定非営利活動法人 劇研

目次

特定非営利活動に係る事業

劇場運営事業	・・・・・ 1
創造事業	・・・・・ 4
人材育成事業	・・・・・ 6
文化・芸術活動支援事業	・・・・・ 8
文化・芸術を教育や児童青少年に活用する事業	・・ 8
文化・芸術による地域のまちづくり事業	・・・・・ 9

その他の事業

自動販売機による飲料販売事業	・・・・・ 11
----------------	----------

特定非営利活動に係る事業

劇場運営事業	支出額 11,137,087 円
--------	------------------

1. 事業概要

劇場「アトリエ劇研」を管理・運営し、演劇・ダンス等実演芸術の専門劇場として、主に現代演劇、現代ダンスの公演会場として、一般に貸し出すのみならず、劇場を拠点に、舞台芸術家の育成・活動支援ならびに舞台芸術の普及に関わる事業を実施。活動内容は、舞台芸術の専門家であり、芸術家としても実績を有する「アトリエ劇研ディレクター」が決定する。

2. 活動実績

- ・ アトリエ劇研の稼働実績／年間稼働日数 347 日、稼働率 95.8%、年間公演 47 本、観客動員数 9567 名
- ・ 年間を通じて観劇できる支援会員制度を、こまばアゴラ劇場（東京）津あけぼの座（三重）シアターねこ（愛媛）と連携し実施。

■ 劇団等の支援実績

年間公演ラインナップを 4 月から 3 月の 1 年間とし、支援対象の公演には「アソシエイトアーティスト」「創造サポートカンパニー」「共催」「提携」という冠をつけ、劇場費の減免、宣伝・広報、制作補助等のサポートを実施。

主催 10 公演 観客動員数 1719 名

劇研アクターズラボ+村川拓也 ・ シニア劇団星組 ・ あごうさとし ・ 「世界に視野を開く地域の演劇リーダー育成プログラム発表公演」ユバチ ・ シニア劇団銀宴 ・ アトリエ劇研スプリングフェス[創造サポートカンパニー ショーケース／鳥丸ストロークロック／技術 WS 公演／アクターズラボ+あごうさとし] ・ 劇研なつまつり

共催 1 公演 観客動員数 531 名

全国学生演劇祭

アソシエイトアーティスト共催 9 公演 観客動員数 1669 名

木ノ下歌舞伎 ・ 遊劇体 ・ 正直者の会(2 公演) ・ KIKIKIKIKIKI ・ サファリ・P
・ エイチエムピー・シアターカンパニー ・ 村川拓也 ・ 岩渕貞太

創造サポートカンパニー共催 12 公演 観客動員数 2941 名

はなもとゆか×マツキモエ (2 公演) ・ したため (2 公演) ・ 努力クラブ (2 公演) ・ 桑折現・250km 圏内 ・ ブルーエゴナク ・ ドキドキばーいづ ・ 笑の内閣 (2 公演)

提携 12 公演 観客動員数 2321 名

ニットキャップシアター ・ ピンク地底人 ・ 正直者の会.lab ・ 京都役者落語会 ・ メソッドアクターズ ・ 南島ロランC局 ・ 第七劇場 ・ 青年団リンクキュイ ・ dracom ・ 渡邊尚×JugglingUnit ピントクル ・ Monochrome Circus ・ 御厨亮企画

一般 3 公演 観客動員数 386 名

かんから館 (2 公演) ・ 発起塾

■ 舞台設営に使用する消耗品の販売（テープ、照明カラーフィルター、たばねゴム）

■ 宣伝・広報活動

- ① ホームページの運営、Facebook、ツイッターの配信
- ② メールマガジン 月2回配信
- ③ 支援会員メールニュース 月2回配信
- ④ ダイレクトメールの発送 月1回
- ⑤ 劇場間バーターによるチラシ折り込みの発送

■活動総括（アトリエ劇研ディレクター：あごうさとし）

劇場文化（市民が日常的に劇場に通う風習）の定着を理念に、年間プログラムと支援会員制度という基礎的な施策の効果が、数字となってあらわれた。年間動員9567人（9-8月換算）は過去最高であり、来館者数は13000人ほどになろうと思う。支援会員も2015年シーズンの41名から2016年シーズンは44名に微増する。一般2万円の価格帯を廃し、2016年シーズンは一般3万円にしほり、実質的には値段があがっている。にもかかわらず、会員数が微増していることは制度が基本的に支持されたと考える。会員の観劇対象公演も倍増し、52演目の鑑賞ができる。このため、2015年シーズンは507人の観劇数に対し、2016年シーズンは1000人を見込む。次年度の動員結果は、さらに増加すると考えられる。昨年度のアゴラ劇場会員の来場者数は53人であり、今期4月-8月時点で56人の来場があり、既に前期を上回っている。年間100人を超える関東からの来場があり、若干の経済効果を生んでいる。また、本年4月から支援会員制度は、東京こまばアゴラ劇場のほか、三重県の津あけぼの座、愛媛県のシアターねこの4館とも連携し、それぞれの会員は4つの劇場の原則全ての演目を観劇できる。他に例の無い取り組みは、日経MJの1面でも紹介される。



参考：支援会員、連携劇場、4館ロゴ

新たな観客の獲得に向けて、セゾン文化財団の助成を得て、アトリエ劇研とキヨウトエクスペリメントとの共同事業として、夜の観光に舞台芸術を推奨いただくための研究会を開催。観光事業者との意見交換を交わし、宿泊施設とキヨウトエクスペリメント事務局との間にホットラインを開設。当該施設の宿泊者は、2016年9-11月のアトリエ劇研及びキヨウトエクスペリメント招聘作品の全てを500円引きで観劇できる。

現在8件のホテルに設置。（ホステル・オリガミ、ホテル平安の森京都、グランドプリンスホテル京都、京都ガーデンホテル、京都ロイヤルホテル＆スパ、ANAクラウンプラザホテル printz、ジェイホッパーズ京都）このプロジェクトの結果は、来期の報告に譲る。

写真：第2回研究会・ホットライン用パンフレット



4月の恒例となった舞台芸術祭アトリエ劇研スプリングフェスは、創造サポートカンパニー全10組のショーケース、新たにアソシエイトアーティスに加わった柳沼昭徳氏の新作公演、アソシエイトアーティスト田中遊氏の演出による技術者の為のワークショップ公演、劇研アクターズラボ+あごうさとし、と、全13演目を1ヶ月にわたって上演。前回はアソシエイトアーティストの紹介に焦点を絞ったが、若手である創造サポートカンパニーの他、技術者育成・俳優育成などを主題においた演目を設定し、次世代に焦点をあてる。若手の登竜門としての役割をダイレクトに表現した。地元のみならず、首都圏の批評家も訪れ演劇祭の模様と参加カンパニーの動向を紹介される。技術ワークショップ公演・アクターズラボ参加者の大半の者が、それぞれの活動の場をみつけ、活動が持続されている。



本年度は、支援会員制度の連携劇場と協力し、各劇場のレジデンスカンパニーを招く、劇場間連携プログラムを設定。アゴラ劇場からアトリエ春風舎芸術監督大池容子氏ほか2団体、津あけぼの座からは、芸術監督の鳴海康平氏が、ラインアップに参加。ソフト面での連携も深める。提携公演では、大駱駝館で活躍された向雲太郎氏が率いる舞踏カンパニーのデュ社や、モノクロームサーカス、振付家ダンサーの倉田翠氏は3つの作品がラインアップされ、特にダンス公演が充実した特徴がある。これによって、2016年度シーズンのプログラムは、ドラマ・ポストドラマ・パフォーマンス・コンテンポラリーダンス・舞踏と現代舞台芸術の豊かな幅と奥行きをもたらせることができた。



アーティスト支援活動の一環で、劇評を劇場が用意するというものを行っている。前年度は、アソシエイトアーティストに絞り、プロの批評家にお金を払って執筆を依頼したが、思うように原稿があがらなかった。今年は、プロアマ問わず批評家を公募し、書類選考と面接の上、10名の批評家に集まって頂いた。アソシエイトアーティスト・創造サポートカンパニー・劇場間連携プログラムの作品にそれぞれ2本の劇評を発表している。批評家達には、会員証を無料で贈呈している。他に、いくつかの劇場関係者・助成団体関係者にも無料で贈呈。会員制度の応用でもって、アーティストの次の活動に繋がる契機となるような支援の環境整備に役立てている。同時に、舞台芸術を語る原論空間を微力ながら劇場が作るということにも、重要な意義があると考える。

ディレクターとして上演した初の新作無人劇「純粹言語を巡る物語-バベルの塔2」は、12月劇研のほか、2月にこまばアゴラ劇場でも上演。上演後3本の劇評で紹介された。3月にはあごう自身がキュレーターを務めたキヨウトエクスペリメントのショーケースにも参加。このショーケースでは、他にアソシエイトアーティストの岩渕貞太・アトリエ劇研ダンス支援企画で処女作「Field pray」を発表した辻本佳の作品を招聘。「身体の在り方」に着目した当該ショーケースにおいて、アトリエ劇研で活動するアーティストを海外のディレクターたちに向かって紹介できた機会は貴重であった。この機会を与えて頂いた、橋本裕介氏に感謝する。



劇場が負担すべき経費を劇場事業によって捻出できたことは、劇場に関わってくださった全てのアーティスト、支援会員、観客のおかげである。とりわけ、この2年を耐えて事業を実現してくれた全ての職員に謝意を表する。魅力ある劇場を作るには、そこで働く者が充実した時間を過ごせることが重要であると改めて思う。残り1年。この劇場がなくなろうと、私たちはまた私たちの未来にむかって、この美しい劇場で充実した時間を過ごしたい。最後に、波多野茂彌先生の思いと志によって、私たちがこの劇場で作品を作り、舞台人として育てられたことを深く感謝を申し上げると共に、その事実を伝えていく所存である。

1. 事業内容

シニア世代の表現活動促進事業をはじめ、さまざまな舞台芸術作品の制作や企画を行った。

2. 活動実績

- ・ アートスペース無門館+アトリエ劇研30周年記念公演『ことばのはじまり』東京公演の実施。
- ・ 50才以上とするシニア世代のクラスの運営を継続。(劇研シニア劇団／高槻シニア劇団)

■ アートスペース無門館+アトリエ研 30周年記念公演『ことばのはじまり』公演

昨年度に引き続き、フランス人俳優・演出家ディディエ・ガラス氏の演出による、新作『ことばのはじまり』をこまばアゴラ劇場（東京）で上演。

(2016年3月19日～20日／ 2ステージ／観客動員数 98人)

■ 活動総括（事業担当：杉山）

2014年に、アトリエ劇研30周年記念事業として制作した『ことばのはじまり』を、こまばアゴラ劇場（東京）からの申し出を受けて再演した。

海外の演出家との協働作品であり、出演アーティストにも相応な報酬を払うという、コストが高い公演でありながら、大きな赤字も出さずなんとか東京で再演できたことは、非常に良かった。観客および演劇関係者の反応も良く、アンケートでは更なる再演の声も上がった。東京でフランスの文化関係者に見てもらえたことも意義があった。2日間とも満席であったが、もっと多くのお客様に見ていただけるような工夫ができなかったのは反省したい。どこの国でも上演できること、大人から子供まで楽しめること、パフォーミングアーツの魅力が詰まっていることを目標に制作した作品であるので、海外での公演が実現するよう引き続き活動を継続したい。



■ 劇研シニア劇団3クラスの企画運営（主な活動場所 アトリエ劇研）

シニア劇団「銀宴」 練習毎週水曜（指導・演出：田辺剛）



公演：2016年5月 第3回公演「桜トランプ」脚本・演出：田辺剛

会場：アトリエ劇研 観客動員数：167名

シニア劇団「星組」 練習毎週月曜（指導・演出：細見佳代）



公演：2016年2月 第7回公演「星組版 地獄八景亡者戯」構成・演出：細見佳代

会場：アトリエ劇研 観客動員数：279名

公演：2016年6月京都シニア演劇フェスティバル参加（京都劇場主催）

演目：「星組版 地獄八景亡者戯」

会場：京都劇場 観客動員数：345名

シニア劇団「空いろ」 毎週金曜日（指導・演出：細見佳代）



2016年3月に旗揚げ 2016年9月公演予定

■ 高槻シニア劇団 3 クラスの企画運営 （主な活動場所 高槻現代劇場）

高槻シニア劇団「恍惚一座」 練習毎週火曜（指導・演出：山口茜）



公演：年9月高槻de演劇秋のプログラム（高槻現代劇場主催） 恍惚一座 第3回公演

「アトリエ・ジャマイカ」

脚本：伊地知克介 演出：山口茜

会場：高槻現代劇場305号室 観客動員数：217名

公演：2016年6月京都シニア演劇フェスティバル参加（京都劇場主催）

演目：「オーロラ・ジェンカ」

脚本：伊地知克介 演出：山口茜

会場：京都劇場 観客動員数：345名

高槻シニア劇団「そよ風ペダル」 練習毎週火曜（指導・演出：筒井潤）

公演：2015年9月高槻de演劇秋のプログラム（高槻現代劇場主催）



そよ風ペダル 第3回公演「ちょうどいい粗忽 そよ風ペダル・楽しいコント集」

構成・演出・振付：筒井潤

会場：高槻現代劇場305号室 観客動員数169名

高槻シニア劇団「wakuwaku」 毎週木曜日（指導・演出：高杉征司）



2015年11月に旗揚げ 2016年10月公演

■ 活動総括（シニア事業担当：梶川）

一期三年限定劇団として設立した高槻シニア劇団「そよ風ペダル」「恍惚一座」とともに、無事二期目を迎えることができた。恍惚一座に関しては、劇団員の自立した意識が高い。講座という色合いからだんだんと「劇団」として能動的に考え活動しようという動きが見受けられる。

自立した劇団という面では、京都の銀宴も負けていない。通常では作品創作は講師を中心におこなわれるが、最新作の「桜トランプ」においては劇団員だけの自主練習で作品の原型が作られ、その上で講師が細かな修正を加えていくという方法が確立された。劇団員と講師の間で目指すべき演技が共有されている証である。星組は恍惚一座とともに京都劇場主催の「京都シニア演劇フェスティバル」で合同公演をおこなった。普段は星組を見ることが多いお客様から、シニアでも演技力だけでここまで見せることができるのかという感想をいただきとても高い評価を得ることができた。京都では細見佳代さん講師の「空いろ」、高槻では高杉征司さん講師の「WakuWaku」が新たに設立され、計6劇団となり、これからも活発な活動が見込まれる。

1. 事業概要

舞台芸術に関わる人材育成を目的に、舞台演技者育成講座、アクターズラボ及び世界に視野を開く、地域の演劇リーダー育成プログラムを実施。

2. 活動実績

- ・ 演劇初心者、アマチュアの演劇爱好者を対象にした公演クラスの継続(京都 2 クラス／高槻 1 クラス)
- ・ 若手の才能、技術や意識の向上と活躍機会の拡大を目指すスキルアップクラスの実施

■ 劇研アクターズラボ・公演クラス 京都 2 クラス (主な活動場所 アトリエ劇研)

ラボ+村川拓也 毎週水曜開催 (指導・演出：村川拓也)



公演：2015 年 9 月『人形の家』 ユニット名「ベチバー」

構成・演出：村川拓也

会場：アトリエ劇研 観客動員数：209 名

ラボ+あごうさとし 毎週土曜開催 (指導・演出：あごうさとし)

公演：2016 年 5 月 アトリエ劇研スプリングフェス『タレをかける』



作・演出：あごうさとし

会場：アトリエ劇研 観客動員数：167 名

■ 劇研アクターズラボ・公演クラス 高槻 1 クラス (主な活動場所 高槻現代劇場／高槻市)

ラボ+夕暮れ社弱男ユニット 毎週水曜開講 (指導・演出：弱男ユニット代表 村上慎太郎)



公演：2015 年 11 月高槻 de 演劇秋のプログラム『東京のドラマ』

ユニット名水曜の家族

脚本・演出 村上慎太郎

会場：高槻現代劇場 305 号室 観客動員数：206 名

■ 劇研アクターズラボ・スキルアップクラス (主な活動場所 京都市左京西部いきいき市民活動センター)

「世界に視野を開く、地域の演劇リーダー育成プログラム」受講生 8 名

文化庁の「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」としてオーディションで選抜した、20 代の若手演劇人の技術、意識向上を目的とした事業を実施した。2016 年 1 月には第一回の成果発表公演も実施した。

- ・ワークショップオーディション 選考・指導：あごうさとし 開催場所：アトリエ劇研 (2015 年 7 月 7 日～10 日)



- ・講座：世界の舞台芸術の今について学ぶ。指導：西堂行人（近畿大学教授）、笠井友仁（演出家）

開催場所：アトリエ劇研 (7 月 10 日)

- ・フィジカルシアターに関する基礎ワークショップ講師：田中史明（元・プリモス大学＜イギリス＞演劇学部講師）

開催場所：アトリエ劇研 (7 月 11 日～12 日) 京都府綾部市／綾部市観光センター（合宿）(8 月 1 日～2 日)

- ・我が国の古典芸能を学ぶとともに、古典芸能に見られる身体性を学ぶ。指導：金剛流能楽師 宇高竜成
開催場所：左京東部いきいき市民活動センター（8月27日～28日、10月23日～24日）
延べ24時間の集中講座。和服を身につけての実施。
- ・身体を重視した即興表現のワークショップ 指導：ディディエ・ガラス（俳優・演出家＜フランス＞）
開催場所：京都芸術センター（3月10日～18日）
- ・デバイジングという手法を用い、身体表現を駆使した、現代演劇の作品を創作した。講師：田中史明
開催日：11月10日～11日、17～18日、28日～29日、12月5日～6日、26日～29日、
1月6日～8日、12日～15日



発表公演:2016年1月16日～17日 ユバチ第一回公演『Re.connect』

指導・構成：田中史明

会場：アトリエ劇研 観客動員数 123名

- ・ディディエ・ガラスワークショップオーディション（2016年度新参加者選抜）2016年5月19日～22日
- ・トマスリープハートワークショップ 2016年7月30日～8月13日



写真：トマスリープハートワークショップ／ディディエガラスワークショップの様子

■ 活動総括（事業担当:杉山）

若手演劇人の育成は、2005年から当法人が取り組む重要な課題の一つである。公演クラスでは初心者並びに演劇経験の浅い方対象に演劇の指導、上演を行い、演劇への入り口を提供することで、人材育成とともに劇場文化の拡大を意図している。今年度も演出家の個性がよく出た3作品が上演され、初心者とは思えない上演成果を上げることができたことは大きな成果であった。また、参加者の多くがその後も演劇に関わり続けていることも成果であり、中には演出家の主催する作品に出演する者がいるなどの発展も見られた。

スキルアップクラスとして行ってきた、人材育成事業の原点とも言えるコースは若手に絞って集中的、継続的に訓練を行う方向に舵を切り、「世界に視野を開く、地域の演劇リーダー育成プログラム」として実施した。実演芸術である演劇にとって、俳優の役割は非常に重要であり、優秀な人材が首都圏に流れてしまう傾向がある中、先進的で専門的なカリキュラムによって、地域で活動する俳優の意識を高め、刺激を生み地域での演劇状況を向上させることができることがこの講座の目的である。文化庁の支援を受けられたことで、非常に廉価で充実したカリキュラムを受講できる環境を受講した8名には与えることができた。しかし、指導者が指摘するように欧米の大学の俳優養成課程に通う学生や俳優養成校に通う学生に比べて、分量も生徒の意識も技術もまだ低いと認めざるを得ない。

しかし、継続して文化庁からの支援を得られたことで、すでに、今年度もカリキュラムが進行しており、1年目を経たことで、メンバーは確実に成長を遂げている。演劇人としての自立を促すという目的達成のための2年目、3年目の積み上げをしっかりと行つていきたい。また、3年目以降のアフターケアについても彼らが自ら自立し、成果を出せるような後押しを行つていきたい。

1. 事業概要

舞台スタッフやプロデュースなど専門家の派遣や演劇プログラムの企画・実施等を請け負う。

2. 活動実績

- ・ 京都造形芸術大学舞台芸術学科への「アドバイザリースタッフ」派遣 年間複数回実施。
- ・ 京都芸術センター主催 KAC Art Festival バラエティボックス スタッフ派遣。2016年2月5日~6日
- ・ 近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻への高所作業指導員の派遣。年間複数回実施。
- ・ 公益財団法人高槻市文化振興事業団が行う、高槻現代劇場の演劇プログラムの受託。
- ・ 全国学生演劇祭の事務局業務受託 公演：アトリエ劇研 2016年2月26日～29日
- ・ 左京朝カフェ特別企画「左京大博覧会 2016」運営受託 開催：左京区総合庁舎 2016年5月28日

■ 公益財団法人高槻市文化振興事業団の委託を受けて、『高槻 de 演劇』と題する高槻現代劇場（高槻市）の主催事業を実施した。

『高槻 de 演劇秋のプログラム』2015年9月10月会場：高槻現代劇場

ラボ+夕暮れ社弱男ユニット『東京のドラマ』 公演

高槻シニア劇団「アトリエ・ジャマイカ」「ちょうどいい粗忽 そよ風ペダル・楽しいコント集」公演。

『高槻 de 演劇 初心者向け演劇ワークショップシニア編』2015年9月10月

50歳以上のシニアを対象としたワークショップを”やってみよう編”、”もっと深めよう編”的2部構成で開講。

新たなシニアクラス開講につながった。(11月開講高槻シニアクラス wakuwaku) 講師：高杉征司

1. 事業概要

舞台芸術の表現の魅力を伝えるとともに、その表現や演技の力を社会に活かす活動を実施する。

2. 活動実績

- ・ 子ども達を対象とした夏の事業「劇研なつまつり 2016」を開催。
- ・ 演劇の手法を用いて学校での授業を実施。

■ 劇研なつまつり 2016 『へんてこパーティー』

2016年8月14日（午前、午後の2回公演）参加者59名（保護者数除く）



(対象者 4歳～小学生とその保護者)

毎年恒例となった演劇と創造を楽しむ子供向け無料イベントを今年は1日2回公演として実施。怪獣“かむじゅう”と踊ったり工作したりしながら子供達とお話しの世界で遊ぶことで、演劇と触れ合い、表現力の魅力を伝えた。

■ 高槻市立阿武山中学校で授業を実施。2016年7月14日



高槻市文化振興事業団の依頼を受けて、高槻市立阿武山中学校で総合の時間を使って演劇の授業を実施した。8クラスを4クラスづつに分けて実施。従来のメンバーに加え外部講師を招き、アシスタントとして、ラボに参加しているメンバーも加えた布陣で実施。指導ノウハウを持った講師の枠を広げていく方針。

1. 事業概要

文化・芸術を活用した手法を用いて地域のまちづくり、地域振興に資する事業を実施する。

2. 活動実績

- 京都市左京西部いきいき市民活動センターおよび左京東部いきいき市民活動センターの管理・運営および高齢者ふれあいサロンの管理運営と地域活性化に関わる事業の実施。建物の維持管理を行うとともに、会議室を、文化事業を始めとする市民活動に貸し出し、高い稼働率で運営を行った。
- 高齢者福祉やまちづくりに資する以下の「市民活動活性化事業」を京都市の委託事業として実施した。

<左京西部>

・ 若者と共に考える、まちづくりプロジェクト～アートで町を美しく～

『少年少女・スタンプウォールペインティング』

地域児童と保護者を対象に、プロのイラストレーターと共にワークショップをへてセンター1階の養正保育所の壁に一つの作品を制作する。アートで美化意識やまちづくりの意識を高めることを目的とするが、センターと保育所、地域住民の交流の場としても機能した。ペイント実施日：2015年11月15日



・ 京都おさんぽコレクション 『タイムスリップ・ウォーキング 思い出のまちめぐり』

西部いきいき市民活動センターから北いきいき市民活動センターまでをウォーキングをしながら、あるスポット



でその場所にまつわる思い出を地域のお年寄りに語っていただいたり、センター利用者の特技披露などを行った。多世代間の交流やセンター間の交流も生むことができた。

ウォーキング実施日：2015年10月3日

・ 高齢者との交流プロジェクト 『まちの思い出展示会』

京都おさんぽコレクションと連動し、初年度より行っている回想法を用いて地域のお年寄りを対象に茶話会を実



施し、聞き取りを行った。そのエピソードを載せた思い出の場所の地図を作成し配布。また、その内容は西部センターでパネル展示し、お散歩コレクションに参加者だけでなく、センター利用者へも広く公開できた。展示 10月24日～11月15日

・ 「地域の魅力を伝える」地域メディア制作プロジェクト



京都・左京区のモノ・人・出来事を参加者それぞれの視点で再発見・再認識し、その魅力を伝える事業。初回ワークショップのまち歩きを元にMAP「半径500mの収集観察と収集」を作成。最終成果物として冊子『観察と収集』(40ページ)を作成。また専用のブログを立ち上げ、活動日ごとにより細やかに内容を周知できた。参加者10名 期間：2015年6月～2016年3月

- ・地域の子供達との交流事業



センター階下の養正保育所と連携し、その保育園児や保護者に限らず、地域内外の子ども、地域内外のお年寄りを対象として、多国籍な音楽に触れる演奏会、楽器作りとその演奏ワークショップ、地域に伝わる盆踊りを体験・習得する練習会を開催した。

演奏会 6月 11日 来場者 80名

ワークショップ 6月 22日

盆踊り練習会 6月 25日、7月 25日、8月 27日 参加者数 延べ 120名

<左京東部>

- ・地域活動の担い手育成プロジェクト『地域活性化型アマチュア楽団育成ゼミ』



昨年度に引き続き、盆踊り大会にむけて地域住民や音楽活動をするセンター利用者との練習会や、発表会として音楽会を継続的に実施。継続することで幅広い世代による交流や情報交換の場をつくることができた。

2015 年盆踊り大会練習会 9/28 10/26 11/30

2016 年盆踊り大会練習会 7/4, 7/11, 7/22, 23

12/21 「さきよーラ and サンボーヨシ音楽会」練習会

- ・わたしの昭和思い出マップ展～錦林・醍醐編～

10月 24日（土）～11月 15日（日）：展示会



醍醐いきいき市民活動センター主催（東部センター共催）のおさんぽコレクションと連動し、地域のシニア世代に場所をテーマした思い出を聞き取り、その内容を写真とともに展示する。高齢者と交流を図るとともに若い世代が受け入れやすい表現方法で紹介することで、世代間の共有をはかれた。

- ・近隣地域との交流促進事業『復活！錦林盆踊り大会 2016』

開催日時 2016 年 7 月 23 日 17 時～21 時 参加者延べ 500 人

2年目となる事業、盆踊りの復活を目指すに据え、老若男女、他地域、他国籍いろいろな人が集まるお祭りを開催した。『地域活性化型アマチュア楽団育成ゼミ』の事業と連動し、幅広い世代のより深い交流が生まれた。



■むすぶプロジェクト

昨年に引き続き、京都府綾部市上林地区において「奥上林地区活性化実行委員会」とともに、地域活性にまつわる以下の事業を実施した。

都市農村交流事業『伊藤浩子アコーデオンコンサート』2016年3月21日 16時



実施場所：綾部市観光センター（綾部市八津合町縄手1）

フランス在住、世界で活躍するアコーディオン奏者、伊藤浩子さんを招きコンサートを実施。綾部市長はじめ会場一杯の来場者にお越しいただき、大いに盛り上がった。来場者 180名

英語を使っての料理会、英語で歌を歌う会を開催



Iターンで上林に来た人、英語に興味のある小さなお子さんのいる家族などと、英語や料理、歌などを通じて、交流する機会を作った。

2月13日 9:30 (料理教室)、12:30 (英語で歌)

2月27日 17:30 (英語で歌)、3月5日 17:30 (英語で歌)

3月29日 9:30 (料理教室)、12:30 (英語で歌)

場所：田中史明氏宅、参加者述べ45名 (6回開催)

その他の事業

自動販売機による飲料販売事業	支出額 66,507円
----------------	-------------

劇場アトリエ劇研に自動販売機一台を設置。支出額は電気代のみ。